

## TOPIC | 1 | 少人数世帯向けコンパクト住宅の提案が相次ぐ

平均世帯人数(1世帯当たりの人数)の減少に対応したコンパクト住宅の提案が相次いでいる。2階建ての間取りでは広すぎると感じる世帯が増えており、その受け皿としてコンパクト住宅への注目度が増してきている。

ポラスグループ ポラテックは平屋住宅の新シリーズとしてMOK-one(モク・ワン)、MOK-one(s)(モク・ワン・エス)を発売した。MOK-oneは、1~3LDKの無駄を省いたシンプルな暮らしを提案。建物本体価格は2LDKプラン(19.5坪)で1210万円(税別)~など。MOK-one(s)は、「ワンルーム戸建て」という新しい発想で開発した「必要最小限住宅」。建物本体価格はLDKプラン(11.7坪)で820万円(同)~。両商品とも耐震性と安全性を確保。断熱等性能等級5相当、一次エネルギー消費量等級6相当の外皮性能も標準仕様とした。

広島建設は、【新しい発想のミニマルでコンパクトな注文住宅】がコンセプトのPivostage(ピヴォステージ)を發



ポラテックが平屋の新シリーズとして販売を開始したMOK-oneの外観イメージ

売した。平屋と2階建て(1LDK/2LDK)のコンパクトサイズのプランを用意。1LDK + ビルトインガレージという間取りプランの「【ひとり暮らしプラン】趣味と暮らす「好き」が詰まった家」などもラインアップする。

FC事業を展開するナックハウスパートナーは、エースホームブランドより、FLAT-X(フラットエックス)を発売。近年人気急激に高まっている平屋のニーズに応えるため、多彩なデザインとコンパクトでも快適な暮らしを提案する「ACEHOME DESIGNED FLAT HOUSE」のラインアップを拡充した。

## TOPIC | 2 | 国交省が能登地震・建物被害の原因分析、対策で検討会

国土交通省と国立研究開発法人 建築研究所が「令和6年能登半島地震における建築物構造被害の原因分析を行う委員会」の第1回を2月14日に開催した。国土技術政策総合研究所(国総研)と建研の調査に加え、さまざまな調査結果やデータを収集・分析して建物の構造被害の原因分析を行い、対策の方向性を検討する。

今後、耐震基準の違いによる住家の被害の傾向や、過去に起こった能登半島の地震の影響などについても検討し、今年秋頃にとりまとめを行う予定だ。

木造建築物の被害調査によると、建築年代が古いものが倒壊、大破しており、特に輪島市や珠洲市、穴水町の被害が多く甚大であったとし、これらのエリアはいずれも比較的古い木造建築物が多く存在する地域であったこと

が指摘された。加えて、津波被害地域においては、建築年代が古い木造建築物が地震により大きく損傷し、津波の波力で被害が拡大したと考えられると指摘した。

一方、基礎及び地盤の被害については、金沢市の造成宅地における外周道路外側の斜面崩壊が確認され、斜面下方に住宅が移動していた例、また、内灘町・かほく市で全長約7kmの広い範囲での液状化による地盤変状と住宅への大きな被害が発生していた例などを報告した。また、輪島市の7階建てのRC造建物の転倒について、基礎の東側が3m以上沈下しており、詳細な調査・分析が必要と指摘した。今後、この調査結果を踏まえて建築物基礎・地盤の被災メカニズムと被災要因の検討を行う必要があると指摘している。

今知りたい情報がここにある  
住生活産業のための  
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online  
ハウジングトリビューン オンライン  
プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>